

積貞棟 3 階

(血液内科、小児科、共通)

1. 看護単位の概要

病 床 数 43 床

血液内科 37 床 小児科 1 床 細胞療法科 4 床 共通 1 床

2. 病棟の特徴

1) 血液内科

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など造血器悪性腫瘍を対象とし、10 代から 80 代と幅広い年齢層の患者に対し、化学療法を中心に自家・同種造血幹細胞移植を組み合わせた治療を行っている。前処置療法の選択肢の増加、骨髄抑制期の感染対策や支持療法の改良、免疫抑制療法の進歩などで移植適応となる患者も増え、造血幹細胞移植件数は年間 50～60 件となっている。

病棟全体がクリーンルーム仕様となっており、疾患や治療によって正常な血液細胞が減少し、易感染状態にあっても患者はマスク着用のうえで自由に病棟内を行動できる。また、病棟設置のエアロバイクやマッサージチェアを自由に使用でき、筋力維持やストレス軽減につながっている。

看護師は感染予防や副作用症状の緩和、異常の早期発見に努め、患者自身がセルフケアを獲得できるよう指導を行っている。また、外来看護師と情報共有を行い、退院後に生活支援や意思決定支援が必要な場合には継続支援を依頼するなど、退院後も安心して治療や療養生活が送れるよう援助している。移植後患者においては、病棟看護師が移植後長期フォローアップ外来を担当し、退院後の生活や社会復帰への支援を行っている。

治療に関連した副作用や入院生活の長期化、生命への危機感など患者の苦痛は計り知れない。また、終末期を迎える患者も多く、患者及び家族に対し全人的なケアが求められる。患者の思いに寄り添い、医師・看護師だけでなく多職種と連携し、患者中心のより安全で質の高い医療が提供できるよう日々努めている。

2) 小児科

15 歳以上の造血器悪性腫瘍の患児を対象とし、化学療法や造血幹細胞移植を行っている。思春期から青年期への移行期であり、自我意識・社会的意識が芽生える大切な時期でもある。家族は勿論のこと、患児本人の意思を尊重した関わりや支援に努めている。

3) 細胞療法科

2019 年にがん免疫療法のひとつである CAR-T 細胞療法が保険適用となり、悪性リンパ腫や白血病の新しい治療法として導入された。2022 年には多発性骨髄腫への CAR-T 細胞療法も開始されている。今後、血液疾患以外での適応拡大が予想され、2024 年 12 月に新設。これまで血液内科で行っていた CAR-T 細胞療法を実施している。